ハビタット福岡市民の会　ニュースレター　　発行 ２００９年１２月２０日

Citizens Net for UN Habitat Fukuoka
ハビタット福岡市民の会

**２８号の主な内容**

■地球市民どんたく２００９
■国連ハビタットデー福岡国際シンポジウム
■環境技術専門家会議　■絵画コンクール
■ラリスさんに聞くアフガニスタン
■2010 年のスケジュール

第28号
http://cnhf.npgo.jp

## ■地球市民どんたく2009

今年で１１回目となる国際協力フェスタ「地球市民どんたく２００９」が、去る１０月１０～１１日にアクロス福岡、交流ギャラリーで開催され、福岡で活動する国際協力・交流に関わるN.G.O.等の２８団体が、その活動を広く市民の皆さんに紹介した。

今回は屋内という場所柄、来場者は途切れがちにはなりつつも、深い関心を寄せてくださり、それなりの賑わいを見せた。

展示内容は、主に「国連ハビタット福岡本部」「ハビタット福岡市民の会」「日本ハビタット協会」の事業・活動報告とした。西はイランから東は太平洋諸島にも及ぶ開発途上の国々の居住問題への取り組み、住民全体の「まちづくり」推進等の目的で１９９７年に設立された「国連ハビタット福岡本部」が、紛争復興再建事業プロジェクトの一環として現在進行中であるアフガニスタンにおける「住民による居住開発」（People's Process）を中心に市民の皆さんに紹介した。

現地の人々が独自で行う　選挙⇒会合⇒実行⇒完成に至る自治の過程を解り易く、写真を添えて説明した。

今や世界は急速な都市化が進んでいく中、それに伴い増してくる様々な居住問題の側面にアジアの拠点として対処しています。

この度「日本ハビタット協会」の方々からは募金活動のご協力を得ました事、お礼申し上げます。（山口明巳）

地球市民どんたくとともに開催された国際協力セミナーが、10 月 11 日にアクロス福岡にて行われた。第一部では３人のパネリストより発表があり、外務省のアフリカ第二課長である岡井朝子氏は、アフリカは豊富な天然資源に恵まれ、90 年代に比べ、現在では政治的安定を実現している。近年では目覚しい経済成長を実現しており、2006 年以降、アフリカへの民間による直接投資額が ODA を超過していることを述べられた。2008 年５月に横浜で行われた第４回アフリカ開発会議では、さらなる成長の加速化、平和の定着・グッドガバナンスの促進、環境・気候変動問題への対処へむけて議論を展開し、成功に終わったとのことでした。２０１２年までにアフリカへの ODA を９億ドルから１８億ドルへと増加させ、最大４０億ドルの円借款を実施するアフリカ開発支援策が打ち出され、金融・経済危機下においてもアフリカの成長を促す方針であることが述べられた。

具体的な方法として、アフリカでの広域インフラ整備支援、農業・食料の支援、貿易・投資・観光の促進、コミュニティ開発、教育と人材育成においては小中学校の１０００校の建設、６５０万人に安全な飲料水を提供するための給水施設設備などが挙げられた。

日本の ODA は平成９年度をピークに１２年間で４２．５％削減されており、米、独、英、仏に次ぎ第５位であり、今後は国民に理解され、支持される効果的な ODA へと質の改善に向けて取り組んでいくことが述べらた。

左から、岡井朝子氏　田中優氏　松鵜太佳良氏　瀧本昌平氏（コーディネータ）

立教大学大学院講師の田中優氏は、私たちの生活の中で身近なごみ問題を追求していくうち、１９８９年にはリサイクルする際に、１キロ１００円で売れていたアルミ缶が、１９９５年には３０円まで値下がりしてしまったことに疑問を持ち、それは安価な新品のアルミ缶が輸入されていたためリサイクルするより新たに購入したほうが安いことが分かり、インドネシアのアサハンアルミの例を挙げられた。ここではアルミを作る工場、発電所、ダムが日本の ODA で、日本企業によって建てられたが、そこに住む住民の人々には電力は供給されておらず、しかも ODA を返済するため、資源を売り、返済に充てられていることが述べられた。返済額のほうが援助額を上回っている国の中に最貧困国も含まれていることを指摘、ODA の増額よりも使い道を改めるべきと述べられた。

外務省には世界銀行の２０分の１しか職員がいないので、ODA の額が大きくなると、１件あたり案件の金額が多くなるとの問題点も指摘された。

松鵜太佳良氏はスイスの高校へ単身留学後、米国の大学、英国の大学院で途上国の社会政策や NGO マネジメントを学んだ経験から、次世代を担うグローバルリーダ育成のための５０年スクール構想の事業化を福岡を拠点に進めていることを述べられた。

パネルディスカッションにおいても活発な議論が行われ、日本における国際協力の取り組みについての理解がより深まったのではないかと思う。（諸藤恵子）

## ■国連ハビタットデー福岡国際シンポジウム

世界ハビタット・デー２００９福岡国際シンポジウムが、2009 年 10 月５日(月)13 時 30 分から 16 時まで「アクロス福岡」４階国際会議場で開催された。

今年のテーマは

**「アジアの都市の未来～都市格差解消を目指して」**

で、アジア地域の都市格差の現状、問題解決のための方策、日本の取り組み等について専門家が議論した。

まず、基調報告を国連ハビタット福岡本部の野田順康本部長が行った。世界で、特に最近は経済成長の高いアジアで、色々な格差が進展してきている。①人口配置上の格差（都市化）②経済的格差（所得・消費格差）③社会的格差（社会のサービスの格差）④環境的格差（公害格差、気候変動による自然災害格差）である。格差が広がるほど不平等になり、社会不安が増すことになる。その是正が求められる。国連ハビタット福岡本部は紛争後・災害後の復興事業やスラム・環境の改善事業などに精力的に取り組んでいるという報告があった。

次に、パネルディスカッションが行われ、コーディネータは野田順康本部長が勤め、パネリストは、国連アジア太平洋経済社会委員会　持続可能な都市開発班長のアドナン・ハミード・アリア二氏、九州大学大学院経済学研究院教授の堀江康熙氏、慶応義塾大学政策・メディア研究科講師の藤井多希子氏、国連ハビタット福岡本部　人間居住専門官のローウィー・ロザレス氏の４人によって行われました。

アジアでは都市化が進展してきており都市にはスラムが多い、ジェンダー（女性差別）問題も多い、気候変動によりゼロメーター地帯で海面上昇している問題もある。そういう現状に対して、その解決策が求められている。

日本でも所得が高い大都市に比べ低い地方部という地域間格差が拡大してきている。東アジアの大都市で高齢化が急激に進んでいるが、東京都市圏の郊外地域では急激に高齢化が進展してきている。

今、郊外地域における市民主体の新しい取り組みとして、神奈川県藤沢市では高齢者のグループリビングが始まっている。身体機能の低下と一人暮らしの孤独と不安を考慮し、食事や清掃などの行為を共同化・合理化して、血縁関係にない高齢者が一つ屋根の下で、協同で住まう居住形態である。あくまで「住宅」であり、制度上の「施設」ではない。地域に開いたサポートシステムを構築することで、地域の活性化にもつながるのではないかと期待を持たれているという報告などがあった。

アジアは高い経済成長をしているが高齢化も進展している中で、高齢者のグループリビングの動きは面白く、注目していきたいと思った。（佐竹芳郎）

## ■環境技術専門家会議

10 月 28 日から 29 日にわたり、アジア太平洋地域における持続可能な環境開発のための技術協力を考える環境技術専門家会議がアクロス福岡にて行われました。アジア太平洋地域では、急速な経済成長が進む中、一部の国では社会資本整備、居住環境、生活水準等の大幅な改善が見られる一方で、自然環境には大きな負荷がかかっており、また急速な人口増加によって、大都市では廃棄物や水・衛生分野のインフラ設備が追いつかず、その問題解決が急務となっています。この会議では廃棄物および水と衛生をテーマに、アジア太平洋地域から自治体、環境技術 NGO 等を招聘し、それぞれの国や都市における環境課題や具体的なニーズ、取り組みの現状を報告しました。また北部九州の自治体および企業・NPO から同テーマにおける先進的な取り組みが紹介され、連携・協力の可能性の模索や問題点を明らかにするなど忌憚のない活発な議論が行われました。（諸藤恵子）

## ■第9回世界ハビタットデー記念絵画コンクール

**「私たちが未来の『まち』のためにできること」**

アジア太平洋地域（極東ロシアを含む）の児童・生徒（小学校 4-～6 年生）を対象に開催した絵画コンクールが行われた。日本を含む７カ国から 768 点の応募があり、国連ハビタット賞金賞には Nicholas Keith C. Marasigan さん(フィリピン、4 年生)、「こどもの未来」賞には Cheten Lama さん（ネパール、６年生）らが受賞されました。11 月２日（月）～11 月 26 日（木）アクロス福岡３階こくさいひろばにて優秀作品 50 点が展示され、展示された作品はあどけなさの中にも希望と力強い未来のまちを感じさせる絵画ばかりだった。

国連ハビタット賞金賞作品
Nicholas Keith C. Marasigan フィリピン ４年生
写真提供：国連ハビタット

金賞作品以外の入賞作品は、

■国連ハビタット賞銀賞
Sabrina Lu 中国４年生

■国連ハビタット賞銅賞
稲盛雅弥
鹿児島市立東谷小６年生

■「こどもの未来」賞(3 点)
Cheten Lam ネパール６年生
Phichak Wirotchanapirom
タイ６年生
頴原千代子
佐世保市立中里小６年生

■アジア太平洋こども会議賞（３点）
Liane Marie A. Cruz フィリピン４年生、Jacqui Lee 中国６年生、Angel Grace M. Grey フィリピン５年生

■特別賞（３点）
Los Ksenya ロシア、６年生、Tse Lok Yiu 中国５年生、Kwong Tsz Kuen 中国６年生

（山前隆）

## ■ラリスさんに聞くアフガニスタン

遥か昔、シルクロードの要所として栄えた歴史があるアフガニスタンは、現在人口推定２５００万人そのうち３０％～４０％が１日１００円以下の生活をしている。国土の６３％が山岳地帯であり、夏は４０度を越える猛暑、冬はマイナス３０度を下回る極寒となる厳しい気候です。国連ハビタットでは１０年以上にわたりアフガニスタンで活動を続けてきた。現在、アフガニスタンを担当されている上級人間居住専門官のラリス・ランカティレケさんにお話を伺った。

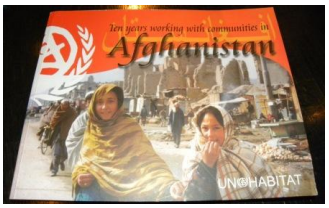
**Q** 国連ハビタット福岡本部では現在、「いのちの水キャンペーン」を行っていらっしゃいますが、アフガニスタンではどのくらいの人々が安全な水を飲むことが出来ない状況だと考えられますか？
⇒アフガニスタンでの水の供給は大変厳しい状況です。国土のほとんどが山岳地帯であり、非常に乾燥しています。都市カブールには推定４００万人が住んでいますが、水道管が通っているのは約２０％程度であり、ほかの人々は井戸水を飲んでいます。貧しい地域では約２００世帯に１つの割合で井戸がありますが、時間が制限されている状況です。農村地帯で、煮沸用の薪とする木があまりないところでは、川の水を直接飲む所もあります。ですから病気になる子ども達もたくさんいます。治安が悪化している今、大変危険な地域の一つであるカンダハール地方では、給水設備によって水を得ることが出来る人々は１０％ほどであり、現在 CIDA（カナダ国際開発庁）が支援し事業を行っています。ジャララバード地方では約２５％の上水道が普及していますが、２日に１度、水がでる状態です。ここでは日本政府によって支援されたプロジェクトが行われています。

**Q** 現在、治安問題も悪化していると聞きましたが。
⇒アメリカ政府は軍隊７万人の増員を検討しているが、アフガニスタンの人々は（治安のためではなく）タリバンを倒すためだと思っています。タリバンは強い信念を持っていて、自爆テロを抑えることは非常に難しい。２００１年、同時多発テロが起き、アメリカ政府によってタリバンが制圧されました。１２月にボン国際会議が行われ、アフガニスタン暫定行政機構が成立。カルザイ政権が発足し、タリバン政権が終わったとされましたが、その後もテロは続いています。２００２年、３年は比較的平和だったが、現在、治安状態は悪化しています。パキスタンへ追い込まれていたタリバンが再結成し、麻薬の売上で武器を購入し、再び襲撃しています。麻薬に代わる産業が必要だが、小麦やじゃがいもポテトはケシの２０分の一の値段で取引されるので、貧困に苦しむ人々はなかなか別の農作物の生産産業へと移ろうとしない。また麻薬はヨーロッパ、アメリカなど世界に需要があるのも問題であり、薬物犯罪をどうやって減らしていくのかも同時に取り上げられるべきだと思います。

**Q** 世界銀行のデータによると、アフガニスタンの国内総生産の５０％にあたる４０億ドルにも及ぶ国際社会からの開発援助があり、１００以上の NGO および援助機関があるとのことですが、お互いに協調して行うことが求められてくると思うのですがいかがでしょうか？混乱などはないのでしょうか？
⇒とくに混乱している状況とは思えません。私たちはアフガニスタン政府が策定、コーディネイトしている国家開発プログラムを支援しています。各国の開発援助機関はその指示に従っています。

**Q** コミュニティー開発協議会（CDC: Community Development Council）を通じたプログラムを行うことによって、住民の人々の中で変化した点はありますか？
⇒住民が自ら提案し生活改善を行うことによって、コミュニティーに一体感が生まれ、それぞれ責任能力を持つようになったと思います。地方の行政組織が十分でない地域では、コミュニティーの力がとても大切で、復興の力となっています。CDC が村人とタリバンとの仲裁に入り、村から追いかえしたという報告もあります。

お忙しい中、インタビューに応じていただき、本当にありがとうございました。
なお、轟由紀さんにも通訳などのサポートをしていただきました。（諸藤恵子）




現在アフガニスタンでの１０年間に及ぶ活動をまとめた報告書が発行されています。⇒

## ■轟さんの退任のご挨拶

**人間居住専門官　轟由紀**

このたび、国連ハビタットのスリランカ事務所で２年間、福岡本部で１年間勤務を終え、千葉県の自宅に戻ることになりました。前々号（26 号）に紹介していただいたばかりですのに、あっという間の１年間でした。スリランカ在任中に、福岡の皆様の募金で津波から復興した「ふくおか村」を担当し、「ハビタット福岡市民の会」のことを知りました。福岡に赴任後、その地道ながら有意義な活動に共鳴して、早速会員になりました。

国連ハビタット福岡本部は「九州唯一の国連機関」として知られていますが、日本にある国連機関事務所のうち、唯一「プロジェクト実施機能を有する事務所」でもあります。他の東京などにある国連機関は、広報や日本政府との調整が主たる業務であるのに対して、国連ハビタット福岡本部は、アジア･太平洋 28 カ国におけるプロジェクトの実施管理・支援が主な業務で、広報は膨大な業務のごく一部にすぎません。そこで、「市民の会」を通じて、市民の目線からも広報活動を行うことは、非常に重要だと私は考えております。その一例として、今号のインタビュー記事（アフガニスタン）のように、現場経験豊富な職員の声を通じて、困難に直面する国々の「実態」を皆さんに知っていただけます。

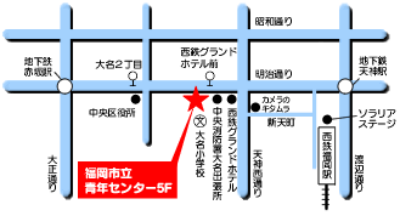
私は、もう福岡市民ではないのですが、「ハビタット福岡市民の会」関東支部（？）のメンバーとして、これからもハビタットと福岡に関っていきたいと思います。今後とも宜しくお願いいたします。

## ■2010 年のスケジュール

スケジュールは、変更になることがありますので
メールやウェブサイトでご確認ください。

１月２１日（木）19：00～　定例会（議案検討など）
２月２５日（木）19：00～　総会および交流会
３月１８日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター発行打ち合わせ
４月 15 日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター29 号発行
５月 20 日（木）19：00～　定例会（内容未定）
６月 17 日（木）19：00～　定例会（内容未定）
７月 15 日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター発行打ち合わせ
８月 19 日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター30 号発行
９月 16 日（木）19：00～　定例会
　地球市民どんたく準備
１０月４日（月）世界ハビタットデー行事
１０月９日（土）～１０日（日）（予定）
　地球市民どんたく２０１０
11 月 18 日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター発行打ち合わせ
12 月２日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター第 31 号発行
１２月９日（木）19：00～
　国連ハビタット福岡本部、日本ハビタット協会との交流会（クリスマスパーティ）

定例会の場所は、原則として、福岡市立青年センター５Ｆ
福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」




### 川嵜さんからのメッセージ

市民の会の皆様、いつも国連ハビタットを応援し支えていただきありがとうございます。10 月 28 日にアフガニスタン首都カブールで起きた国連職員の利用する宿舎への襲撃を受けて、現在多くの国際職員が国外に待機している状況です。私も福岡に戻り、現地と連絡を密に取り治安と事業の進捗状況を基に福岡本部で仕事をしております。いつまでこの待機状態が続くかわかりませんが、カブール事務所より連絡を受け次第、アフガニスタンへ戻る予定です。どうぞ今後ともよろしくお願いします。

### 編集後記

　福岡では、新型のインフルエンザが大流行していますが、皆さんはお元気でしょうか？　ワクチンがなかなか行き渡らず御心配の方々も多いかと思いますが、基本はインフルエンザに負けない体力を維持しておくことだと思います。
　今号は、記事内容が多く、文字サイズを小さくしました。行間もせまくしております。若干読みづらい点もあろうかと思いますが、ご了承願います。また、発行が遅れましたことをお詫びもうしあげます。（牟田）

## ■事務局からのお願いとお知らせ

**●2010 年度会費納入のお願い**
会費のほとんどは、ニュースレターの発行費用です。
皆様方のご協力をよろしくお願いします。
　年会費　一般 2,000 円　学生 1,000 円
会費の納入は、同封の郵便振り替え用紙で、下記へお願いします。
　郵便振替口座　０１７３０－０－７８４３４
　加入者名義　　ハビタット福岡市民の会

**●ボランティア募集**
ハビタット福岡市民の会の運営や活動のサポートに携わっていただく、ボランティア（運営委員や会員）を募集しております。
国連ハビタットの活動に興味をお持ちの方、大学生などとくに若い方々の積極的な参加をお待ちします。
お問い合わせは、下記連絡先へ。

**●日本ハビタット協会　福岡支部の新体制について**
日本ハビタット協会（本部 東京）では、従来福岡支部を担当していた佐伯恵美さんが国連ハビタット福岡本部へ異動されたことに伴い、福岡支部の体制が９月１日づけで下記のようになった。
支部長：牟田慎一郎（現ハビタット福岡市民の会代表）
副支部長：末次憲二（元パナソニック社会文化部）
事務局員：若干名

なお、事務局住所は、従来と同じく国連ハビタット福岡本部に置き、受付業務も、引き続き佐伯恵美さんに代行いただきます。

警固公園（福岡市中央区）のイルミネーション　（撮影：芳賀均さん）

### 事務局・お問い合わせは

**郵便物のあて先は：**
〒810-0041　福岡市中央区大名２－６－４６
福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん連楽ボックス２号
**お問い合わせは：**
TEL　090-6770-2481（代表 牟田）
FAX　0942-41-2080
E-mail: muta@ktarn.or.jp
URL　http://cnhf.npgo.jp